

第3回 軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議まとめ

日時	令和7年（2025）7月14日（月） 午後3時から午後5時20分まで			
会場	軽井沢発地市庭 イベントスペース			
出席 （敬称略） ◎座長 ○副座長）	◎荒井 英治郎 ○三和 秀平 木村 泰子 西郷 孝彦 福本 理恵 飯澤 幸世 西野 博之 岡田 敏之 唐沢 浩一（代理） 臼田 瑞希（代理） 本城 慎之介 上原 浩子 山崎 伸一 久保 貴史 諸星 ひとみ 岩崎 ひとみ			
欠席（敬称略）	本田 秀夫 今村 久美 一色 保典		傍聴者	18人
事務局	宮本 隆 教育長 内堀 繁利 教育推進アドバイザー 岩井 和成 課長 金井 章宏 課長補佐 金井 拓也 係長 学校教育係 職員 小林 真理 堀本 淳子 軽井沢高校・教育魅力化推進係 職員 根津 彩香 桐野 耕介			
会議事項	（1）第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ （2）「私たちの学校」をつくるアンケートについて （3）「私たちの学校」をつくるワークショップについて （4）夜間中学について （5）設置場所について （6）その他			
当日資料	次第、第2回設置準備会議まとめ、「私たちの学校」をつくるアンケートについて、 「私たちの学校」をつくるアンケート アンケート結果、 「私たちの学校」をつくるワークショップについて、ワークショップ説明資料、 ワークショップ結果報告、 軽井沢オープンドアスクール（仮称）における「夜間中学」設置に向けた広報について、 『「夜間中学」設置に向けたニーズ調査に向けて（案）」についての意見・質問と事務局対応、 夜間中学広報チラシ（日本語・英語）、軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置場所について			
主な内容（意見、質問等）				
会議次第について 1. 開会 2. 教育長挨拶 3. 座長挨拶 4. 議題 （1）第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ 【意見・質問等】なし （2）「私たちの学校」をつくるアンケートについて 【意見】・学習のあり方を見直す必要がある。 ・先生がみんなの前で怒るということは、教員の目線だと当たり前をやっていたが、子どもから見るとすごく嫌なものであることが改めて分かった。 ・指導は一瞬で暴力に変わるということを教員が自覚する必要がある。 教員が指導をやめ、変わることが大切。 ・居場所づくりをする際に子どもから出てくる意見と同じような結果である。 今後、どのようにこのアンケートを（既存の）学校でも生かしていくか難しいところ。 ・不登校保護者の会等にも協力を仰ぎ、学校に行きづらい子の本音が聞けるようにアンケートをとっていただきたい。 ・服装等のルールについて見直しも行っているが、様々な考え方の子どもがいるので慎重に考える必要がある。簡素化も必要だが、あまり自由にしすぎてもという懸念がある。 ・ルールも校則もゼロベースで、子どもたちとつくっていくのがよいと考える。 ・みんなの前で叱るというのは、大人同士でやればパワハラと問題になる行為。 大人が変わる必要がある。 ・校則は子どもを管理するために作られたもの。子どもを信用することも大切。 ・実際に校則がなくても困らない。子どもを信頼する覚悟が必要となる。 また、急に校則をゼロにするとショックを受ける生徒もいるので、想定する必要もある。 ・教員が「指導」をやめてはどうか。指導ではなく支援していくことが必要。 【質問】・実際に不登校となっている児童生徒の回答はどのくらいあるのか。				

(3) 「私たちの学校」をつくるワークショップについて

【意見】・今回出された意見について、教員でも討議しつつ子どもたちや保護者へフィードバックしながら、「私たちの学校」をつくっていかれると思う。

- ・子どもの参加が少なかった。子どもが意見を言いやすい配慮が必要。
- ・子どもの意見と保護者の意見とは、必ずしも一致しない。
- ・こういったワークショップにぜひ高校生も参加させてほしい。
- ・子どもが参加しやすい環境、心理的安全性の確保された環境を整えることが大切。
- ・生きることの生きにくさの裏には発達特性や家庭の状況がある。特性は取り除けないが、環境を整えることはできる。
- ・環境を整えるうえで、机や椅子、照明などの細かな設定が大事。先生という存在も環境の一つ。そういったことをひとつひとつ丁寧に設定していくことが必要。
- ・学校の教員の意識を変えるための学校教員向けワークショップが何より大切ではないか。教師集団の意識を変えなければ、通り一遍の形で開校して終わってしまう。
- ・メタバース空間などを活用したワークショップも面白いのではないか。
- ・オープンスペースでの質問に答えるのは大人でも難しい。心理的安全性の高い場所で、選択肢等の方法を用いることで頭の整理ができるのではないか。参加した子どもが安心感を持ち帰れる場の設計をお願いしたい。
- ・同じ人でも持っている感覚や特性は違う。その前提で学校づくりをすることが大切。
- ・国際多文化教育でも、お互いの違いに対する気づきからすべてが始まる。
- ・ワークショップの会場が学校のように感じる。もっと落ち着ける空間づくりが必要。
- ・何回もやらなければ本音は聞けないのではないか。

【質問】・軽井沢町にフリースクール等はあるのか。

(4) 夜間中学について

【意見】・設問項目について、プルダウンでの回答を追加いただきたい。

- ・「中学校にあまり通えていなかったため、中学校生活をやり直したいから」という文言を追加いただきたい。
- ・「歩いて通えない場合」の設問について、「場所による」という文言を追加いただきたい。
- ・夜間中学の対象者を掘り起こすのは本当に難しいため、広報だけではなくイベントなども開催いただきたい。
- ・夜間中学の対象者には、読み書きに困難がある人も考えられるため、箇条書きでの対応や、イベントでの読み上げサポートを実施してはどうか。
- ・チラシに、現役中学生も通うことができることの分かる文言を追加いただきたい。
- ・チラシの登校時間で、16時登校では働いている方が通えないため、17時半登校等にしてはどうか。
- ・転籍をする前に、体験期間を設け、体験期間は教育支援センター的利用としてはどうか。

【質問】・国籍を聞くのはタブーな場合もあるが、本アンケートではタブーとならないか。

- ・国籍については、国籍を知りたいのか、母国語を知りたいのか。

(5) 設置場所について

○事務局より、設置場所の検討項目について説明。

【意見】・設置形態等について、子どもへ知らせる必要はない。

- ・学校の名前を検討すれば、子どもたちへの印象は変わる。
- ・学校の名前は児童生徒から募集してはどうか。
- ・条件を伺ったが、軽井沢高校も条件を満たす可能性が高いため、検討いただきたい。
- ・学校の設置場所について、チャイムの有無や知っている先輩がいるなどという点も検討が必要。子どもが、どうすれば通いやすいのかということを中心に検討が必要。

【質問】・分校型での設置を想定している理由は何か。

(6) その他

【意見】アンケートについて、比較しやすいように、パーセンテージを入れていただきたい。

5. その他

○事務局からの事務説明。

- ・今回は9月22日、軽井沢町中央公民館にて、フォーラム&ワークショップと同日開催となる。